

3月学習会のご案内

平成25年2月28日

この世は思った通りになる！

「この世は思った通りになる」という言葉があります。「ONE PIECE」というマンガを書いている尾田栄一郎という作家が単行本の扉に書いた言葉です。私はこの言葉が大好きです。

読んで字の如く「この世は自分が思った通りになるようにできている」という意味です。前向きに考えて努力していけば、どんどんめざす目標と現実が近づいていくものです。逆に「もうだめだ」「無理に決まってる」とあきらめれば、目標を達成することなく終わってしまうでしょう。どちらも自分の思った通りになっていることになりませよ、と教えてくれています。ならば自分の可能性を信じて、あきらめることなく前向きに取り組む方がいいに決まっています。どんなに苦しいときでも、そうすることで道は拓けるときがやってくると言えます。

本当にそうなのか？不本意な結果を受け入れざるを得なかった人々は、みんなこれに当てはまっているのか？と問われればもちろんそうとは言い切れませんが、しかし自分に、どうしても叶えたい夢やだれにも譲れない目標をもっている人にとっては、その肩を押してもらうのに十分すぎる言葉でしょう。今年の卒業生に最後に贈る言葉にしようと思っているものです。これからの人生に前向きに突き進んで行って欲しいという願いをこめて。

たった一言の「言葉」が自分の信念になったり生きる支えとなったりします。言葉のもつ力ってすばらしいなと思います。言葉の果たす役割っていろいろ考えられますが、最も人の生き方に大きくかわるのはこういうところではないかなと思います。

これをもって私は語る会の事務局の仕事を退かせていただきます。長い間お世話になりました。6年間の仕事歴はこの会においてよくがんばった方だと自画自賛します。もちろん、次回からも何らかの形で会には参加し続けます。これからも国語を語る会をよろしく願います。



日時	平成25年3月30日(土) 9:30~12:00
場所	岡山大学教育学部附属小学校 2階 会議室 TEL(086)272-0511 FAX(086)271-3455
連絡先	小野 桂(おの けい) TEL090-7970-4197 odorurenkon418@docomo.ne.jp keikeioh@fuzoku.okayama-u.ac.jp(学校パソコン)
内容	説明的な文章の学習展開について 「ウナギのなぞを追って」(4年 光村図書) 教材研究から授業展開までを考えていきます

<お知らせ>

「おもしろ見つけ」の本を、附属小でお取り扱いしております！来られる前に冊数をご連絡ください。代金引換となります。(特価！)多くの方に手にとっていただけるように、みなさん！宣伝活動がんばりましょう！



2月の学習会の報告 (文責 近藤昌子)

2月の語る会は、「天気を予想する」(光村図書5年)を授業化する際に、子どもの反応をどう位置付け、何を深めていくのかについて話し合いました。

田中先生より

○中学校の校長先生の講話について

・落語家桂南光さんのエピソード

牛窓の魚売りのおばさんと魚の名前について「げた」か「したびらめ」かで通じ合えなかった。

・河合隼雄、鷲田清一对談「臨床とことば」の中の「理解するってどういうこと」の紹介

「事実、人にはそれが自分にとって重大であればあるほど分かれてたまるかという思いがある。・・・逆に分からないといけないのだろうけれどもどうしても分かりたくないというシチュエーションもあるだろう。・・・相手が分かってもらえてうれしいと言ってくれたときでさえも、本当に自分は分かったという感触がない・・・自分が聞いてもらうときには分かってもらえたという確信のようなものがしっかり生まれる。・・・理解するとは、合意とか合一といった到着点を目がけるものではなく、分からないままに身をさらし合う果てしないプロセスなのではないか。一致よりも不一致、伝達よりも伝達不能、それを思い知ることが理解においては重要な意味をもつ。・・・そのときそういう過程をくぐることでわたし自身が変わったのだ。そういう出来事が起こることが大事なのであって、その場で分かるか分からないかはたいしたことではない。・・・自分の言ったことが承認されるかされないかは別にして、それでも自分のことを分かろうと相手に関心を持ち続けていてくれることを相手の言葉や振る舞いのうちに確認できたとき、人は分かってもらえたと感じるのだろう。理解できないからと言ってその場を立ち去らないこと、それでも何とか分かろうとすること、その姿勢が理解においては一番大切なだろう。」「人の痛みが分からないという工学学者は、それでも閉所恐怖症の妻のそばから離れないことが理解につながっている。」

小川先生より

○校長会の話より

・のはらうた

○御野小での説明文「ウナギの謎を追って」…子どもが食いつく

・題名、第一段落、最後の段落を黒板に貼る。

→あらすじ発問で読み取る。

→塚本さんはみんなに何を伝えようとしていますか？

→調査について、たまごをうむ場所を見つける調査を詳しく書いているのでは？…子どもの直観最後の段落への反応は少ない。

→たまごを有無場所を見つける調査を調べよう。この調査はすばらしい？…工夫してすばらしい。

→単元を貫くめあて「卵を産む場所を見つけるすばらしい調査を確かめよう」

・2番目の段落

→子どもの反応パターン①大きな網を使うこと、レプトセファルスを繰り返してさがすこと

②～のです、きっと～(推論)

③レプトセファルスの体だから～できると思う(事実と推論)

→発表→位置付け…塚本さんの実際の調査のすばらしさ、塚本さんの推論のすばらしさ、事実から推論を生み出すすばらしさ…3つのすばらしさ
つながり見つけができた→☆マーク&線で結ぶ

・次時

→子どもだけでつながりを見つけられだしている。

→残り10分 「～のです」の文章表現が続くことから「塚本さんの推論に納得できますか？」

→この事実からこう考えているから納得できる。海流から考えているのは納得できる。

→批判的に読むことも大事では。一つの問いかけ方として位置付く。

・子どもの反応

前は海流の発想だったのに、違う視点で年輪に着目しているのがおもしろい

→前の段落とつなぐ読みとして位置付ける

→工夫しているところを探す

→塚本さんの考え方に納得できるか？という問いかけ

子どもは前とつないで考える。「～はずです」といった文末表現に目を向ける。

田中先生より

○説明文の問いと答えに目を向けられる。

問いと答えに至る部分の検証の学習が積み重ねられている。

おもしろ見つけも学習済みを前提とすると、

→4, 5年生 通読から黙読…3分間で読んで何を書いているのかを説明する指示

スピードを要求される 全部に目は通せない

どこに目を向けるか 題名 冒頭部分 後半のまとめ

→この文章は読まなくてもよいか…まだ不足 表現駆動, ポイント駆動の必要性をもたせたい

なぜこのことを言うのか?どんな過程で言っているのかを意識して課題としてもつのが4年生頃から必要

<話し合いの流れ>

ワークシート1～3段落掲載の中の2～3段落を対象。

一次 「天気を予想する」でみんなに何を伝えようとしているのか直観を確かめる

「天気を予想する人々の営み」が書かれていることから「的中率が高くなった人々の営みを確かめていこう」というめあてをもっている

二次 1～3, 4～6, 7～9, まとめの大きく4つに分けた内容のうちの2～3段落を1時で扱う。

子どもはどこに反応し、どの言葉や図とつないでめあてを確かめていくか、残り10分は何か、子どもの反応をどう価値付けるか、どうさばくかについて話し合う。

話し合いの結果

グループ1

○めあて

1案 的中率を高めた人々のすばらしさを確かめよう

2案 どうやって人間が的中率を高めたのか確かめよう

○予想される子どもの反応

装置・観測・予想図・スーパーコンピューター・情報伝達の発達・情報の共有など

→数字・写真・図などでイメージを高める(子どもの発言から位置付ける)

○切り込み

1案 段落を入れ替えてもよいか?→構成に目が向く

2案 たくさんの技術や装置の一つぐらいなくてもよいのではないか→的中率を上げた因果に目が向く

3案 「～のです」や段落の最初にまとめの文で語られる特徴から「すごくよく分かったのはどうしてか」→筆者の書きぶりに目が向く

グループ2

○めあて

人々の営みに向かうめあて

○子どもの反応

装置・数値・挿し絵とのつながり

○板書

全文だけでなく、何を整理していくか…構造的に、深まりにつながるように

○読み深め

・進歩と協力だけがまとめではない

具体的な機器の名前や数値の板書を概観させて、「ここには人間はいないのでは？」

人間の目的に向かって協力する姿を結び付けてまとめる。

・7台のうちの1台を受け持っていることから情報の共有に絞り込んで書かれている。

2段落と3段落の書きぶりの違いや特徴から人々が一つの目的に向かって協力していることに気付かせる。

グループ3

○子どもの反応

数字・進歩・機器・時間・正確さ・何種類もの予想・日本の役割・国際的な情報・地球全体・因果について総合的に話してくる

○批判的に読む

「本当に進歩になっているのか」→科学技術の進歩は実は具体的ではない

図や写真は適切か→文章にぴったりとは思えない

小川先生

○子どもの反応を位置付ける

子どもの発言の想定がきちんとできること→教材研究でなされるべきこと

○説明文の書きぶり

「科学技術の進歩」「国際的な協力」とまとめて書かれその後に具体が書かれる。

具体的に何をどう表しているか言葉の概念を結ぶ作業が必要

・科学技術の進歩と〇〇の装置をつないだ子どもにはまとめている言葉と具体的な言葉をつなぐことができたね、とつながり反応として位置付ける。

・「常に」「同時刻に」…意図的な言葉の配置→どういう営みか意味づけて考えられるようになる。

数字の必要性…数も大事だが場所も大事。人々の営みの内容を想像することもきわめて大事。

・表現駆動の力をつけることで分かったつもりが実感できるようになる。

「7台の内の1台の管理運営」とはどういうことか意味が分からないと国際的な協力の意味も分からない。

・下の図で意味がある図はどれか？ものの写真は雰囲気だけ→どの図が文章とつないでいけるか図式下ものがこの下にいるのかいないのか？わざわざ入れない意味は？意図が見えてくる。

・単語の意味、文をつないで因果レベル、抽象と具体、段落をつなぐ意味（2段落と3段落をつなぐと的中率の高さが分かる）様々なレベルで語ってくる

→小学校では後追い。子どもの反応があってから教師がその価値を位置付ける。それがことばの力になる。

田中先生

○大人読みの視点で

1段落の事実の提示+問い→2, 3段落で答え

- ・データを読む 5年ごとの意味 隔年だとでこぼこする。5年だと順当に右上がりと考えられる
1980年前後と2000年前後に飛躍的な進歩
どういう事実の変化があったかの情報が本来は必要
△2008年現在のみの情報しかないので具体的な進歩が書かれていない
△設置箇所の推移や人工衛星が打ち上げられたときについての情報が必要
△コンピューターの導入が1980年頃、国際情報の構築とさらなるコンピューターの発達2000年前後といった情報がない。

- ・資料を読む P132の表…データには示されていても、文章化されていない情報がある
- ・科学技術の進歩や国際的な協力での的中率は上がるのか？
理由の一つ…難しくなる要素である突発的な事象が増えてきている。むしろ下がる要因が増えていくこと、的中率は上がる難しさを言っていない問題点がある。
- ・大人読みの観点を5年生にどこまで反映できるか
問題提起とは事実を踏まえて問題の共有化ができる。それに対する答えの展開はどうか。
1段落の事実を踏まえて問題を出すところは5年生で振り返ることは可能。
- ・3段落 「～が影響します。そのため～」とあるが知っているとされる「そのため」以前の情報は本当に知っていることなのかという問題がある。理科でしているなら思い出させる働きかけが必要
- ・設置箇所の情報 20箇所は他の数に比べて少ない。半径300キロメートルとなると納得。
85箇所で大丈夫か？その意味を考える学習は必要。きちんと考えないと、数値が示されるとすぐに信じてしまう大人になってしまうのではないか。